

決まり字特訓シート - 一字決まり (7首)

決まり字を見て下の句を書きましょう

番	決まり字	上の句	下の句(書いてみよう)
18	す	住の江の 岸に寄る波 よるさへや	
22	ふ	吹くからに 秋の草木の しをるれば	
57	め	めぐりあひて 見しやそれとも 分かぬ間に	
70	さ	さびしさに 宿を立ち出でて ながむれば	
71	ゆ	夕されば 門田の稻葉 おとづれて	
77	せ	瀬を早み 岩にせかるる 滝川の	
87	む	村雨の 露もまだひぬ まきの葉に	

決まり字特訓シート - 二字決まり (42首)

決まり字を見て下の句を書きましょう

番	決まり字	上の句	下の句(書いてみよう)
3	あし	あしひきの 山鳥の尾の しだり尾の	
4	たご	田子の浦に うち出でて見れば 白妙の	
5	おく	奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の	
6	かさ	かささぎの 渡せる橋に おく霜の	
10	これ	これやこの 行くも帰るも 別れでは	
13	つく	筑波嶺の 峰より落つる みなの川	
14	みち	陸奥の しのぶもぢずり 誰ゆゑに	
16	たち	立ち別れ いなばの山の 峰に生ふる	
17	ちは	ちはやぶる 神代もきかず 竜田川	
20	わび	わびぬれば 今はた同じ 難波なる	
23	つき	月見れば 千々にものこそ 悲しけれ	
24	この	このたびは 幣も取りあへず 手向山	
26	をぐ	小倉山 峰の紅葉葉 心あらば	
33	ひさ	ひさかたの 光のどけき 春の日に	
34	たれ	誰をかも 知る人にせむ 高砂の	
37	しら	白露に 風の吹きしく 秋の野は	
40	しの	しのぶれど 色に出でにけり わが恋は	
41	こひ	恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり	
43	あひ	逢ひ見ての のちの心に くらぶれば	
44	あふ	逢ふことの 絶えでしなくは なかなかに	

46	ゆら	由良の門を 渡る舟人 かぢを絶え	
47	やへ	八重むぐら しげれる宿の さびしきに	
51	かく	かくとだに えやはいぶきの さしも草	
52	あけ	明けぬれば 暮るるものとは 知りながら	
55	たき	滝の音は 絶えて久しくなりぬれど	
59	やす	やすらはで 寝なましものを さ夜ふけて	
61	いに	いにしへの 奈良の都の 八重桜	
62	よを	夜をこめて 鳥のそらねは はかるとも	
65	うら	恨みわび ほさぬ袖だに あるものを	
66	もろ	もろともに あはれと思へ 山桜	
72	おと	音にきく たかしの浜の あだ波は	
73	たか	高砂の 尾の上の桜 咲きにけり	
74	うか	憂かりける 人を初瀬の 山おろしよ	
81	ほと	ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば	
82	おも	思ひわび さても命はあるものを	
85	よも	夜もすがら もの思ふころは 明けやらで	
89	たま	玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば	
90	みせ	見せばやな 雄島のあまの 袖だにも	
91	きり	きりぎりす 鳴くや霜夜の さむしろに	
94	みよ	み吉野の 山の秋風 さ夜ふけて	
97	こぬ	来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに	
100	もも	百敷や 古き軒端の しのぶにも	

決まり字特訓シート - 三字決まり (37首)

決まり字を見て下の句を書きましょう

番	決まり字	上の句	下の句(書いてみよう)
1	あきの	秋の田の かりほの庵の 苛をあらみ	
2	はるす	春すぎて 夏来にけらし 白妙の	
7	あまの	天の原 ふりさけ見れば 春日なる	
8	わがい	わが庵は 都のたつみ しかぞすむ	
9	はなの	花の色は うつりにけりないたづらに	
12	あまつ	天つ風 雲の通ひ路 吹きとぢよ	
21	いまこ	今来むといひしばかりに 長月の	
25	なにし	名にし負はば 逢坂山の さねかづら	
27	みかの	みかの原 わきて流るる いづみ川	
28	やまざ	山里は 冬ぞさびしさ まさりける	
30	ありあ	有明の つれなく見えし 別れより	
32	やまが	山川に 風のかけたる しがらみは	
35	ひとは	人はいさ 心も知らず ふるさとは	
36	なつの	夏の夜は まだ宵ながら 明けぬるを	
38	わすら	忘らるる 身をば思はず 誓ひてし	
39	あさぢ	浅茅生の 小野の篠原 しのぶれど	
45	あはれ	あはれとも いふべき人は 思ほえで	
48	かぜを	風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ	
49	みかき	御垣守 衛士のたく火の 夜は燃え	
53	なげき	嘆きつつ ひとり寝る夜の 明くる間は	

54	わすれ	忘れじの 行末までは かたければ	
56	あらざ	あらざらむ この世のほかの 思ひ出に	
58	ありま	有馬山 猪名の 笹原 風吹けば	
60	おほえ	大江山 いく野の道の 遠ければ	
63	いまは	今はただ 思ひ絶えなむ とばかりを	
67	はるの	春の夜の 夢ばかりなる 手枕に	
69	あらし	嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は	
78	あはじ	淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に	
79	あきか	秋風に たなびく雲の 絶え間より	
80	ながか	長からむ 心も知らず 黒髪の	
84	ながら	ながらへば またこのごろや しのばれむ	
86	なげけ	嘆けとて 月やはものを 思はする	
92	わがそ	わが袖は 潮干に見えぬ 沖の石の	
95	おほけ	おほけなく うき世の民に おほふかな	
96	はなさ	花さそふ 嵐の庭の 雪ならで	
98	かぜそ	風そよぐ ならの小川の 夕暮れは	
99	ひとも	人もをし 人も恨めし あぢきなく	

決まり字特訓シート - 四字決まり (6首)

決まり字を見て下の句を書きましょう

番	決まり字	上の句	下の句(書いてみよう)
19	なにはが	難波潟 短き芦の ふしの間も	
29	こころあ	心あてに 折らばや折らむ 初霜の	
42	ちぎりき	契りきな かたみに袖を しづりつつ	
68	こころに	心にも あらでうき世に ながらへば	
75	ちぎりお	契りおきし させもが露を 命にて	
88	なにはえ	難波江の 芦のかりねの ひとよゆゑ	

決まり字特訓シート - 五字決まり (2首)

決まり字を見て下の句を書きましょう

番	決まり字	上の句	下の句(書いてみよう)
83	よのなかよ	世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る	
93	よのなかは	世の中は 常にもがもな 渚こぐ	

決まり字特訓シート - 六字決まり (6首)

決まり字を見て下の句を書きましょう

番	決まり字	上の句	下の句(書いてみよう)
11	わたしのはらや	わたしの原 八十島かけて 潟ぎ出でぬと	
15	きみがためは	君がため 春の野に出てて 若菜つむ	
31	あさぼらけあ	朝ぼらけ 有明の月と 見るまでに	
50	きみがためを	君がため 惜しからざりし 命さへ	
64	あさぼらけう	朝ぼらけ 宇治の川霧 たえだえに	
76	わたしのはらこ	わたしの原 潟ぎ出でて見れば 久方の	